

## 「リストラでの宣教」

2016年06月16日

使徒言行録14章8節～18節。リストラに、足の不自由な男が座っていた。生まれつき足が悪く、まだ一度も歩いたことがなかった。この人が、パウロの話すのを聞いていた。パウロは彼を見つめ、いやされるのにふさわしい信仰があるのを認め、「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と大声で言った。すると、その人は躍り上がって歩きだした。群衆はパウロの行ったことを見て声を張り上げ、リカオニアの方言で、「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお降りになった」と言った。そして、バルナバを「ゼウス」と呼び、またおもに話す者であることから、パウロを「ヘルメス」と呼んだ。町の外にあったゼウスの神殿の祭司が、家の門の所まで雄牛数頭と花輪を運んで来て、群衆と一緒に二人にいけにえを献げようとした。使徒たち、すなわちバルナバとパウロはこのことを聞くと、服を裂いて群衆の中へ飛び込んで行き、叫んで言った。「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、わたしたちは福音を告げ知らせているのです。この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です。神は過ぎ去った時代には、すべての国の人が思い思いの道を行くままにしておられました。しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。」こう言って、二人は、群衆が自分たちにいけにえを献げようとするのを、やっとなやめさせることができた。

パウロとバルナバはリストラに来た。この町に生まれつき足の不自由な人がいて、彼はパウロの説教に聞き入っていた。癒されるにふさわしい信仰があるのを見て、パウロは「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と大声で宣言した。すると、彼は躍り上がって歩きだした。これを見た群衆は声を張り上げ、その地方の方言で「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお降りになった」と叫んだ。そして、バルナバを「ゼウス」と呼び、説教をしたパウロを「ヘルメス」と呼んだ。バルナバは風格があったのであろう、彼をギリシアの主神「ゼウス」、小柄ではあるが、説教するパウロを伝達の神ヘルメスと言った。町の外にあったゼウスの神殿の祭司が、家の門の所まで雄牛数頭と花輪を運んで来て、群衆と一緒に二人にいけにえを献げようとした。ギリシアの神々は人間や、自然の延長線上にあったので、人間を容易に神々と認めただのである。二人は慌てて群衆の中に飛び込んで、叫んだ。「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか」。私たちがあなた方と同じ人間に過ぎない。あなたがたが人間の手で造った偶像を離れて、真の神に立ち帰るように、私たちが福音を告げ知らせている。神こそが天と地と海と、その中にある全てのものを造られた方である。神は、人が思い思いの道を行くままにしておかれたが、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではない。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなた方の心を喜びで満たしてくださっている。二人は、私たちが神ではなく、ただの人間であり、神は人間や自然を超越した創造主なる神で、この神の恵みに与って人間は生かされていると語った。これを聞いて、群衆は二人にいけにえを献げようとするのをややく止めた。人は神ではない、天地を造られた神のみが神である。この真理をリストラで鮮やかに示した出来事を伝えている。